

診療情報利用に関するお知らせ

『研究課題名：ICUでのPADシートの導入前後における疼痛管理の変化』

【研究の背景および目的】

集中治療室に入室する重症な患者様の中には、強い痛みや集中力の低下、短期的な記憶障害などに悩まれる患者様が多くおられます。このような症状は集中治療室での合併症（疼痛、不穏、せん妄）として予防や治療の対象となります。米国集中治療学会から公表されているガイドライン（PADガイドライン）では、このような集中治療室での合併症を予防し、看護、治療する最適な方法が模索されています。このPADガイドラインでは、集中治療室に入室している患者様の痛みの管理について、客観的なスケールを使用して、定期的な痛みの評価を行うことが推奨されています。

東邦大学医療センター大森病院特定集中治療室では、PADガイドラインを参考にし、ICUに入室している患者様の痛み、不穏、せん妄に関する情報を記録する「PADシート」を作成、運用することでよりよい看護と治療を目指し取り組んでいます。今回、このPADシートの導入が痛みの管理方法に影響を与えたか否かを明らかにすることを目的とし、本研究を計画しました。

この研究では、看護師による痛みの評価回数を調査します。痛みの評価回数が増加することと鎮痛薬の投与回数が増加することには関連があることが先行研究により明らかにされています。つまり、痛みの評価回数が増えることで、患者様の痛みの管理の質が向上することにつながります。

【研究対象および方法】

本研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2018年3月～2019年3月までに東邦大学医療センター大森病院特定集中治療室に入室した成人患者様のうち、集中治療系カルテシステムを利用した患者様を対象とします。カルテから、集中治療室滞在中、客観的な痛みの評価スケールが、何回記載されたかを観察します。また、年齢、性別、入室経路、転帰、重症度スコア、診療科、人工呼吸管理日数、集中治療室での滞在日数の他、患者様の痛みの管理に影響があると予測される様々な項目についても併せて情報収集をし、あらゆる側面から分析を行います。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。本研究に関してご質問のある方、診療情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。また、本研究への参加を希望されなかった場合の、患者様への不利益もありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院
特定集中治療室 看護師・副島 里香
電話 03-3762-4151 内線 6251